一般社団法人 日本看護学教育学会
教育活動委員会主催　研修会　活動報告書

「COVID-19感染拡大防止」と「教育の質保証」の両立を目指した看護学実習・演習の試み

４名の講師の方々より看護教育の質を維持するために、ICT等を活用した授業展開の実際をご紹介いただき、その後、意見交換を行いました。
事前申し込みは320名、当日のZoom参加者は常に200名を超え、参加者から講師への質問や感想がたくさん寄せられておりました。本テーマについての参加者のみなさんの関心の高さは実感されました。
研修会の様子を紹介し、参加者アンケートの結果を報告します。

日時　：2022年1月9日(日)13:00～16:00
方法　：ZOOMによる遠隔研修
講演と質疑応答
参加料：会員　無料　／　非会員　3,000円
人数　：300名前後

進行・研修内容

司会　山口 みのり
開会挨拶　日本看護学教育学会 理事長　大島 弓子
座長　松田 安弘　水戸優子

講演1　小池 武嗣 先生　（聖隷クリストファー大学看護学部）
「看護演習のDXに役立つデジタル活用術」
質疑応答

講演2　森本 実希 先生・酒井 久美 先生　（奈良県立病院機構看護専門学校）
「COVID-19禍における臨地実習の取り組み
～入院中の患者と看護学生をオンラインでつなぐ～」
質疑応答

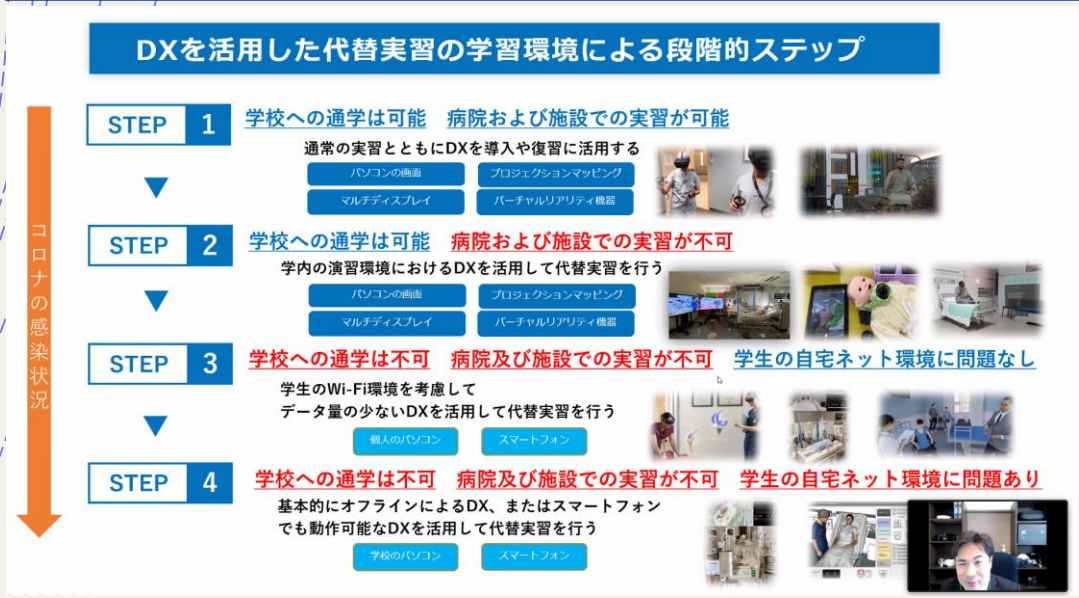
講演3　政岡 祐輝 先生　（国立循環器病研究センター医療情報部/教育推進部
副看護師長、熊本大学大学院社会文化教育部 博士後期課程）
「ICT教育の質保証に向けた考え方と授業設計のポイント」
質疑応答

閉会挨拶　教育活動委員長　嘉手苅 英子

講演の様子

「看護演習のDXに役立つデジタル活用術」 小池 武嗣 先生

ウイズコロナ時代に突入し、従来の演習や実習方法の質の保証に留まらず、それを超える取り組みとして、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の技術活用の必要性が言われています。しかし、看護基礎教育の現場では、いまだ、コロナ禍による演習・実習の最低限の質保証に追われ、なかなかDX化の取り組みができていないのが現状ではないでしょうか。教育DX化のためには、デジタルに関わる知識、技術が必要なのは確かではありますが、よい教育をするための意欲と少しのアイデアがあれば、プチ看護教育DXに取り組めるはずです。そこから始めてみましょう。私からは、安価で、入手しやすいデジタル素材を活用しての在宅看護演習について紹介します。そしてデジタルが苦手という教員の方でも、楽しく取り組めるための工夫点も紹介したいと思います。



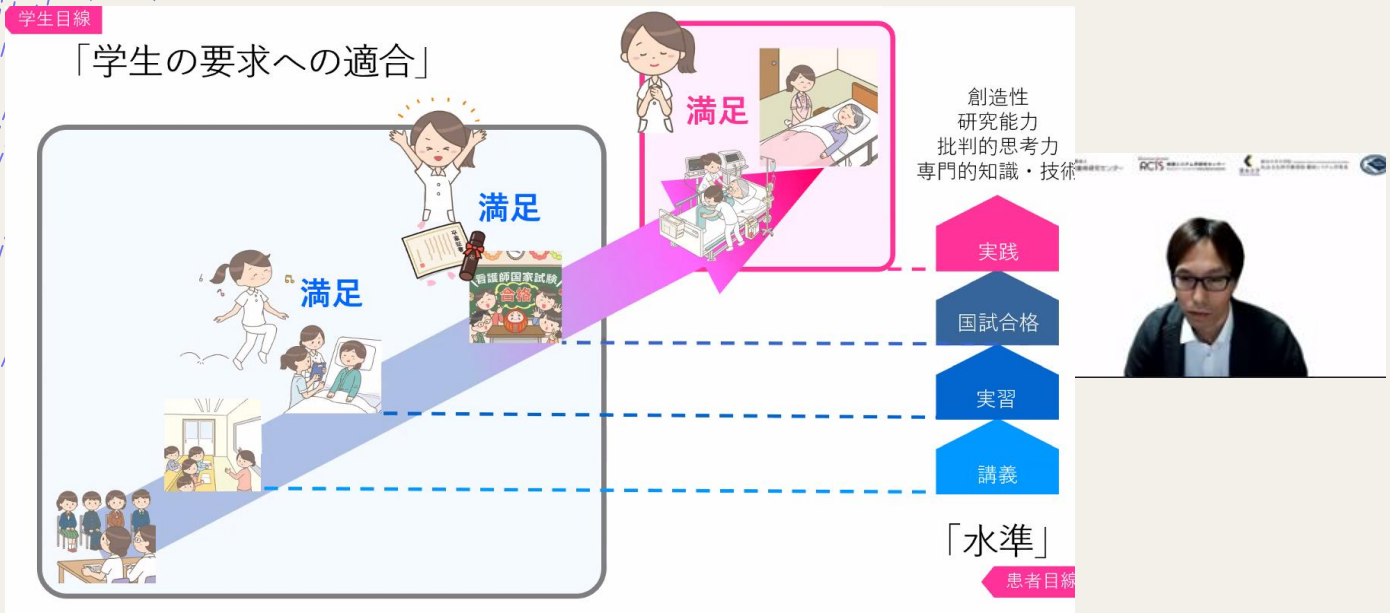
「COVID-19禍における臨地実習の取り組み　～入院中の患者と看護学生をオンラインでつなぐ～」 森本 実希 先生・酒井 久美 先生

2020年度は、未曾有の事態「COVID-19」が発生し、すべての臨地実習が中止となり学内実習へとなりました。その中で、「COVID-19感染拡大防止」と「教育の質保証」を守りつつ、教員が学生に「何を学んでほしいのか」を明確にし、オンラインを活用する方法に至りました。そして、臨床とシームレスに調整・協働を進め、「入院患者と学内の看護学生をオンラインでつなぐ」という学内実習を実践しました。今回は、そこに至るまでのプロセス、臨床との協働や実習の実際、臨床指導者がどのような思いでオンライン実習を受け入れ、創意工夫をしたのか、を織り交ぜつつ、このような実習から、看護学生自身がどのようなことに悩み、そこからどのような学びを得たのか、をご紹介します。さらに、今年度は、2020年度に続きコロナ禍における臨地実習が2年目となりました。そこで世界的にワクチン接種やPCR検査数が増加したウイズコロナ下で学生の学修機会の充足に向けた今年度の臨床との取り組みの実際を紹介し、学生の実習評価をもとに当校における今後のポストコロナに向けた課題をご紹介させていただきます。

講演の様子

「ICT教育の質保証に向けた考え方と授業設計のポイント」　政岡 祐輝 先生

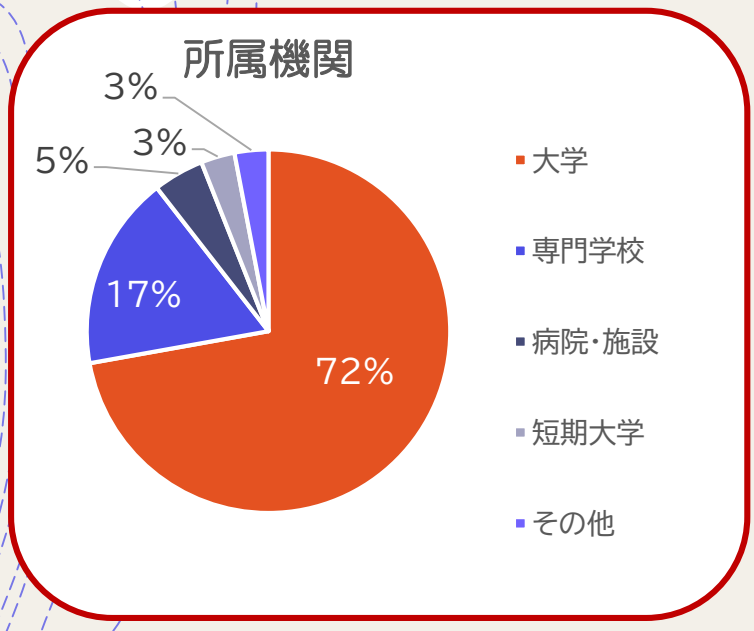
高等教育機関として保証すべき「質」は、様々な視点がありますが、「学生の要求への適合」すなわち学生の満足度を保証することは、非常に重要な視点です。当然、学生の満足とは、「授業が楽しかった」、「国家試験合格した」といった表層的なものではなく、卒業し臨床等に出て学生時代の学びを振り返った際に、「自分の努力が正当に評価され、専門職業人／社会人としての基盤となる知識やスキルが身についた。この学校で学んでよかった」という満足が得られるかです。このような学びの「質」を「保証」し続けるためには、学習目標・評価方法、授業方法の整合性は欠かせません。しかしながら、授業方法の検討や工夫が先立ち、学習目標の明確化や評価方法の検討が疎かになっていることが多いと感じています。看護教育においてもオンライン教育、IT機器の利活用が進んでいますが、今一度教育原理に立ち返り、教育の「質保証」に必要な考え方や授業設計上のポイントをご紹介します。

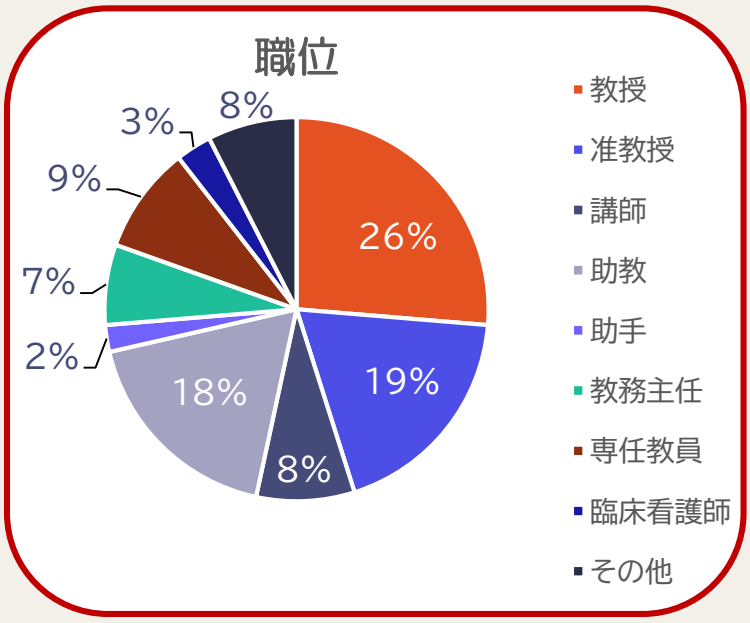


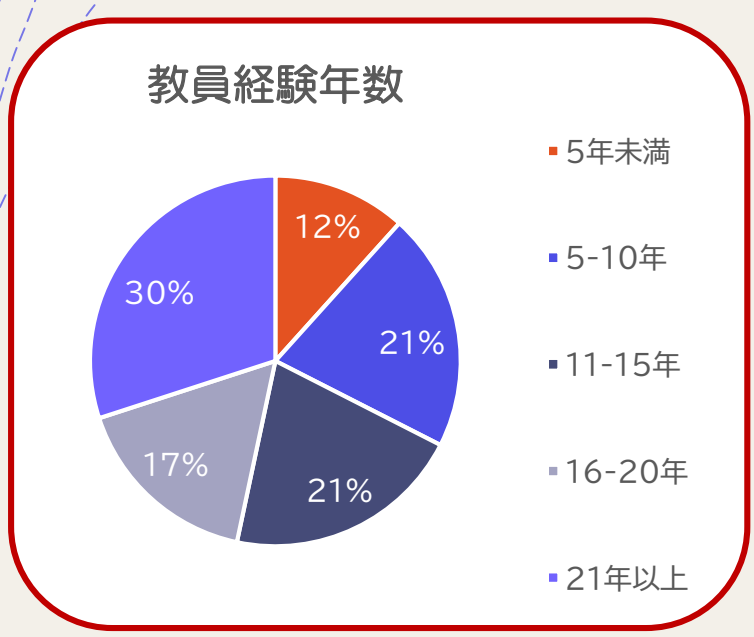
講師の皆様、理事長、教育活動委員との記念撮影

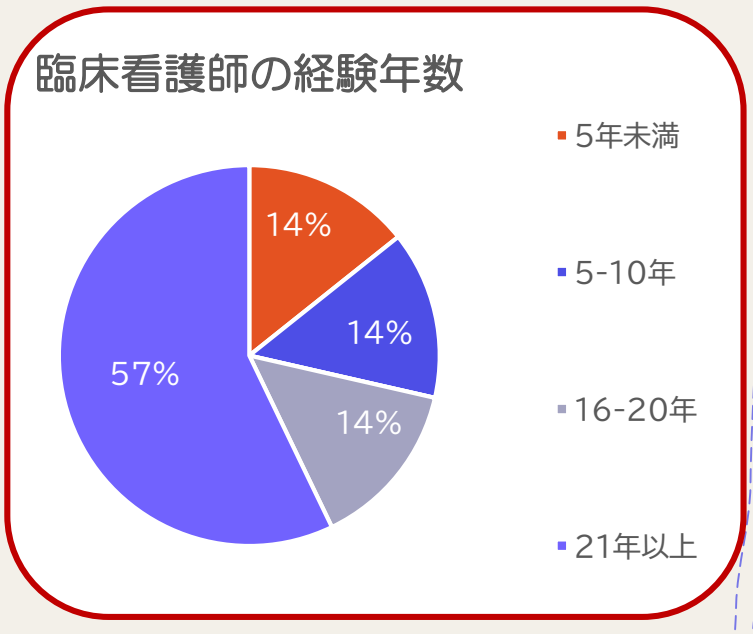
一般社団法人日本看護学教育学会　ICT活用研修会

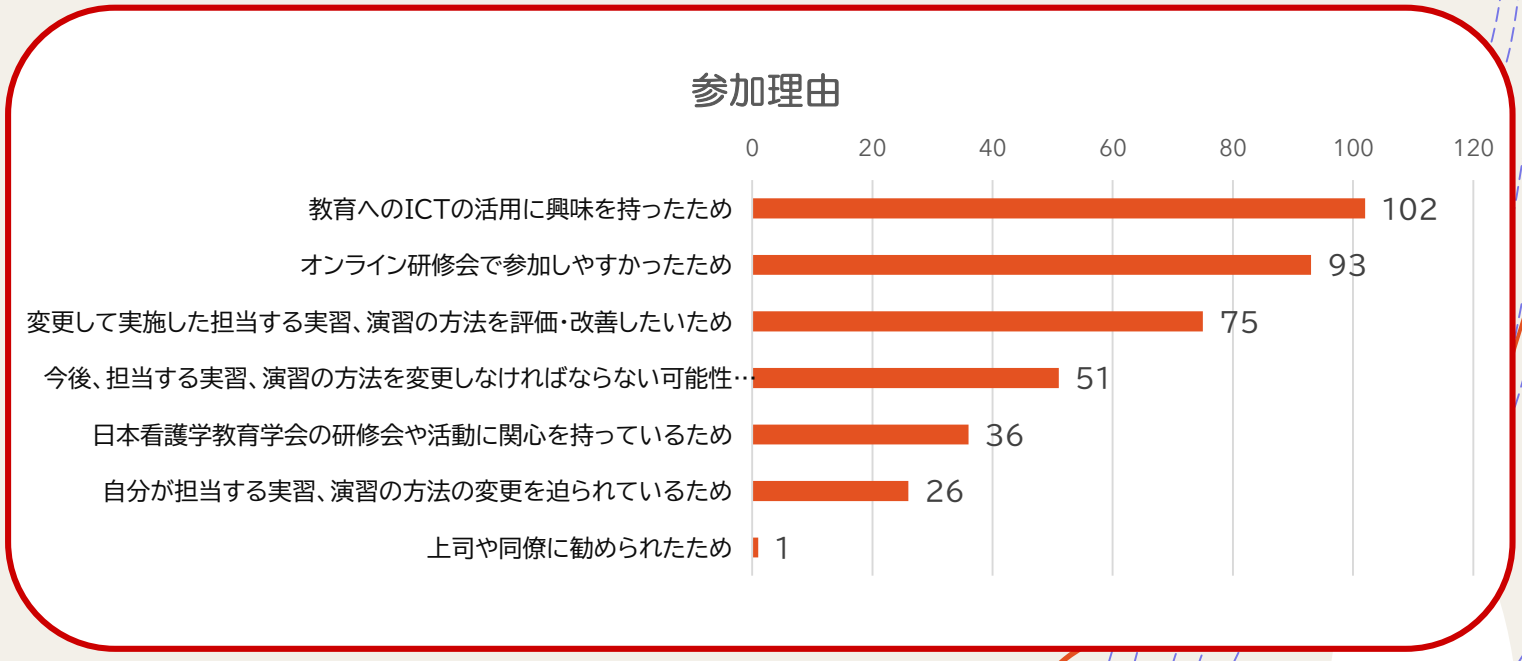
参加者のみなさまから多くのご意見・ご感想をいただいました。（回答数133名）











一般社団法人日本看護学教育学会　ICT活用研修会

研修会の感想・役立つ点

・小池先生の取組が大変興味深く、メタバースの可能性を感じました。
・演習や実習目標の設定は、あくまでも卒業時に到達すべきラインからブレてはならないと改めて気付かされました。
・森本先生と酒井先生のご講演では、臨床との協力体制で臨地に行けない場合の患者とのリモート実習の実際を確認できて参考になりました。
・政岡先生のご講演では教育において評価方法が最も重要であることを思い出させて頂きました。
・教育の質保証をして行く上で、何をもって質保証とするのかを明確にしていくことが大事であり、それを看護実践能力の担保とすることと言われていたこと、またその為に大事な目標、構造的な内容構築、そして評価方法を正しくしていくことについて説明していただけ大変役立ちました。
・シミュレーション学習法を行うときに正しい評価をしていくことが大切だと改めて認識いたしました。情報リテラシーは、より良い学習環境づくりにおいても、教員らは連携をしながら準備していく必要があると感じました。

研修会の開催方法について

・日曜開催のため参加しやすかった。
・オンラインのため参加しやすかったのでコロナ後もオンライン参加を継続してほしい。
・大変参考になる講演であったので、今後の実践のために資料の配布またはオンデマンドで聞き返せるとよいと思いました。
・病院は学会参加補助がないので、会員無料・オンラインで大変有意義な研修に参加できました。
・講演も大変参考になりましたが、他の参加者や先生方が何に困っているか情報共有ができるとよいと思いました。
・実際の実習場面など少し動画形式で見れると更にイメージしやすいと思いました。

研修会で開催してほしいテーマ

・メタバースを活用した教育方法。
・多様な学生（LGBTQや学習障害など）に応じた教育方法。
・シミュレーション教育を用いる場合の授業設計。
・若手教員の学生指導について。
・基礎教育から臨床へのシームレスな橋渡しについて。
・看護基礎教育の質保証のための評価内容や基準・規準について。
・教員の社会貢献とその活動を学生の教育にどう生かすか。
・シミュレーション教育の情報共有とシミュレーション教育における評価方法について。
・臨床現場における、新人教育での課題と看護基礎教育の課題との比較や現状について。
・新カリキュラムにおける臨床判断能力の育成について。
・ポートフォリオの活用例、DPのルーブリック評価例、学生の実践力評価について。

ご参加ありがとうございました。

一般社団法人　日本看護学教育学会　教育活動委員会
委員長　嘉手苅英子　委員一同